



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第128号

発行:2016年12月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会



これからの老健の在り方

介護老人保健施設 阿久和鳳荘 施設長 根本 慎一郎

「フレイル」という概念をご存知でしょうか？

日本の介護および介護予防サービスに要する費用は年間8兆円を超えており、今後もさらに膨らむことが必至であり大きな課題となっています。高齢者が要介護状態に陥る過程には意図しない衰弱、筋力の低下、活動性の低下、認知機能の低下、精神活動の低下など健康障害を起ししやすい脆弱な状態を経ることが多く、一昨年からこれらの状態を日本老年医学会は「フレイル」として提唱しています。一般的に高齢者の虚弱状態を加齢に伴って不可逆的に老い衰えた状態と理解されることも多いのですが、この「フレイル」の概念には、しかるべき介入により再び健康な状態に戻るといった可能性が含まれています。「フレイル」に陥った高齢者を早期に発見し、適切に介入をすることにより、生活機能の維持・向上を図ることが期待されています。

2010年度(平成22年度)の「健康日本21」の資料によると、男性は平均寿命79.55歳に対して健康寿命が70.42歳、女性平均寿命は86.30歳に対して健康寿命が73.62歳と、男性9.13歳、女性12.68歳もの差があります。

厚生労働省は2025年(平成37年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進しています。これが中学校区程度の日常地域生活圏域単位で構成される「地域包括ケアシステム」です。国が「地域包括ケアシステム」を推し進める理由は2025年にはピークを迎える急速に進む日本の少子高齢化に向かい膨らみ続ける医療費と介護保険費用を抑制し、社会保障制度を持続させることが第一と思われませんが、高齢者が住み慣れた自宅や地域にできるだけ長くいられるためのシステムを確立しようとするものです。

介護保険制度とは、ひとことで言えば、要介護状態になった場合でも、できるだけ住み慣れた家庭・地域で生活を営むことが出来るよう、社会的に支援

していくことです。この介護保険制度のもとに『阿久和鳳荘』のような介護老人保健施設(以下老健施設)は「フレイル」に陥った高齢者への積極的な介入を行い、「地域包括ケアシステム」の中で医療機関と在宅医療への架け橋をするリハビリテーション施設として入所やショートステイ、デイケア等を提供し、できるだけ長く在宅での生活を維持できるようにするなどの重要な役割を担うこととなります。

利用者が老健施設を退所し自宅に戻ること在宅復帰と呼び、退所者の在宅復帰の割合を在宅復帰率とし、在宅復帰率の高い老健施設には加算が設けられ、在宅医療への移行をさらに加速させています。ここでいう自宅とは自分の家、サービス付き高齢者向け住宅、グループホームであり、病院は当然ながら、特別養護老人ホームなどの介護福祉施設は含まれません。在宅復帰率が50%を超える老健施設、いわゆる在宅強化型の老健施設も増えつつあり、在宅復帰率が30%を超える老健施設は在宅支援型と呼ばれ、『阿久和鳳荘』もまず在宅支援型(現在は従来型、在宅復帰率20%)を目指しています。

その一方で老健施設は介護度だけでなく、看護度も上昇しています。将来的には持続した点滴加療や酸素吸入、喀痰吸引など療養型病院と同じような機能も求められてきており、益々施設運営やそこで働く職員にとって厳しい環境になってきています。

もはや介護と医療を切り離すことは困難であり、この2つを両立させた切れ目のない地域の高齢者に信頼される包括的なサービスの提供が不可欠と考えられます。この時にあくまでも主役は利用者であり、病院や施設ではありません。様々な形態の病院や施設を有する鵬友会にはそれが可能であると信じています。

「人が人らしく人生の終末期を過ごし、人が人らしくその一生を終える。」ただそれだけのことがこんなにも容易くないものなのか？私が阿久和鳳荘の施設長に就任して3年目、日々痛感していることで



握り寿司イベント

～ 介護老人保健施設 阿久和鳳荘 ～

11月16日（水）『介護老人保健施設 阿久和鳳荘』にて、握り寿司イベントを開催しました。カウンター越しにお寿司を握る職人を目の前に、皆さんのテンションも上がります。「まぐろお願い!」「へい、おまち!」なんて掛け声も賑やかに飛び交い、皆さん新鮮なお寿司に舌鼓。大満足な昼食会となりました。



ほうゆう保育園園児の訪問

～ 介護老人保健施設 阿久和鳳荘 ～

11月11日（金）小雨降る日でしたが『ほうゆう保育園』の子どもたちが、介護老人保健施設 阿久和鳳荘を訪問してくれました。元気いっぱいの歌声で、ご利用者さんの顔も優しい笑顔になっていました。帰り際、プレゼントした風車を片手に「くるくる回るね～」と走り出す子どもたちを目を細めて見守っている姿が印象的でした。



鵬友会 研修レポート

～平成28年度 看護係長・主任研修 開催!～

平成28年11月26日（土）

平成28年11月26日（土）9時～17時 鵬友会合同看護係長・主任研修が行われました。前半は、池島常務理事（看護係長・主任に期待すること）と新中川病院の片桐看護部長（看護部係長・主任として現場の危機管理について学ぶ）の講話があり、後半には、グループワークで『自己の部署でリスク体験し、患者・家族に自分が中心になって対応した事例での行動を振り返る（自己分析を含む）』についてのディスカッションし、学びを深めました。